

看護部日記

いつでも、どこでも、 緩和ケアを行っていききたい

最近のデータから2人に1人は「がん」にかかるといわれています。がんと診断された患者さんは、症状や治療に対する不安だけでなく、ご家族や仕事など患者さん自身に関わる全てに不安を抱えます。以前、私はがん患者さんがその症状からくる痛みで苦しめられたり、様々な不安で悩

んでいる様子を数多く見てきました。その度に私の役割は何か、出来ることは何かを自問していました。当時の私が出来ることは限られ、患者さんの痛みを緩和することも、不安を解消することも出来ませんでした。その経験から何かお手伝いをしたいと思い、がん性疼痛看護を専門とする資格を習得しました。

現在、私は緩和ケアの委員と共に、がんの痛みや不安に悩む患者さんやご家族、またはケアを実践している病棟看護師からの相談を受ける活動をしています。痛みの緩和については、医師や薬剤師と話し合いその方に応じた調整を行っています。

今後も、がん性疼痛で悩む



総合医療センター 10階西病棟
おぐら かずこ
小 椋 和 子

患者さんに医療用麻薬を主とした鎮痛薬や副作用を丁寧の説明し効果を高めることができるお手伝いの他に、様々な不安を出来る限り解消し、安心して生活していただけるように、身近で頼れる存在でありたいと思います。そして、医師、看護師、薬剤師、リハビリ療法士等の他職種と連携を密にし「いつでも、どこでも、緩和ケア」を行っていきたいと思います。

私が勤務をする10階病棟では、緩和ケアを希望される方も入院されます。その患者さんやご家族がリラックスできるように、のんびり過ごせる自宅のような雰囲気を提供できるように環境を整えていききたいと考えております。

上司から一言



総合医療センター
10階西病棟 課長
まつもと まりこ
松 本 万 里 子

小椋さんは、がん性疼痛看護認定看護師です。がんによる痛みや治療に伴うつらい症状を鎮めたり、和らげたり、また不安や気持ちの落ち込み、気がかりなことを少しでも解消できるよう個別的なケアや相談をさせて頂くことを専門としています。経験と学びを活かし、患者さん、ご家族の声に耳を傾け苦痛緩和ができるよう医師や薬剤師等と連携し取り組んでくれています。

今後も患者さん、ご家族に寄り添い、暖かで和む、そして信頼される存在でいてほしいと思います。私たち10階スタッフ一同、小椋さんと共に緩和ケアを提供していききたいと考えております。

